

# れいげん

大光山 霊源寺 寺報 第五号

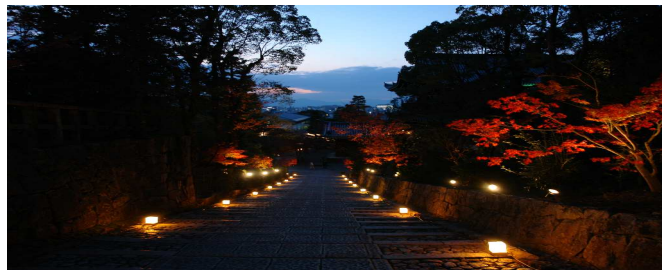


発行：2015年9月

## < 住職あいさつ >

こちら札幌は、すっかり秋の風となりました。東京はいかがでしょう？日中はまだ暑い日があると思いますが、日の入りが早くなってまいりました。次第に秋の気配を感じることに存じます。我が国では、四季折々の年中行事があります。四季それぞれに趣きがありますが、秋はとりわけ哀愁を帯び、私達にしみじみとせつなさを感じさせてくれる季節ではないでしょうか。

先日、何気なく本を見ていると、次の言葉が琴線に触れました。「私は宇宙を、友人は人生を、考えていたのです。紅葉が教えてくれたのは、季節だけではありませんでした。」これはJR東海の「そうだ京都、行こう。」というCMのキャッチコピー（太田恵美作）です。ほんとうに秋は、人生を考えるのに絶好の機会かもしれません。人生は、ときに四季に例えられます。春には春の、夏には夏の、秋には秋の、冬には冬の趣きがあります。それは、20代には20代の時にしか無い輝きがあり、30代には30代の、40代には40代の味があり、50代60代・・・と年齢を重ねると、それぞれに深みがあることと思います。その今しかない人生の趣きを大切にしながら、生きてゆきたいものです。



(知恩院ライトアップ)

## < 浄土宗① >

宗祖法然上人のはなし⑤（浄土宗開宗 編）

前回、余談が長すぎて肝心な「浄土宗開宗編」がまったく進んでおりませんが、比叡山の黒谷での隠遁生活を続ける法然上人が浄土宗を開宗するに至る前、苦悩し報恩蔵に籠もり一切経（当時の日本に存在した全ての仏教經典及び注釈書など）を読み返し「我が身、我が心にあった法門」に出会うことができたということから始めたいと思います。

法然上人の目標は「凡夫が凡夫のままで解脱する（救われる）ことの出来る教え」でした。当時、僧侶といえば宗教家というよりは学者であり、寺院は現在でいうと大学のような場所です。仏教は今ほど庶民にとって親しみのあるものでは無かったことでしょう。

人の数だけ苦しみがあり、人の数だけ解決方法があります。その解決方法がお釈迦様が説かれた仏教であり、法然上人の苦しみの答えもまた法恩蔵の中に見つけることができました。

**【南無阿弥陀仏】** 現在では老若男女だれでもが知っている六文字です。

実はコレ、とんでもなくすごい事だと思うのですが、続きはまた次回です。

## 〈靈源寺の歴史〉

現在、靈源寺は札幌市中央区にある新善光寺の東京別院という位置づけであり、住職は札幌の住職でもある太田眞琴が兼務しております。

その前は新善光寺先代住職の太田隆賢が同じく兼務していました。その兼務住職就任は昭和 58 年のことです。それからさかのぼり隆賢の義父・渡邊眞海上人が住職になったのは昭和元年、以後は法縁の新谷寛應上人、渡邊眞澄上人と、いずれも杉並にある「西方寺」の縁者によって引き継がれ、そして隆賢へと引き継がれたのです。

靈源寺は新善光寺の東京の拠点として重用され、関係者が下宿して大学に通うなどしていました。しかし、普段は札幌にいますので常駐できない靈源寺のことは責任をもって管理してくれることがどうしても必要でした。そこでお寺で経営していた幼稚園の関係者に声をかけ、須貝さん・梶田さんのお二人に靈源寺の管理人をお願いしました。

お二人は昭和 59 年から博眞閣が完成する平成 10 年までの 13 年間にわたって管理の仕事に一生懸命取り組みました。

現在の本堂は昭和 62 年に完成しましたので、入った当初はあまり整備もされていなかったらしく掃除に精を出して、また本堂の設計には東京の葬儀事情を考えて意見も出したそうです。

(次項へ続く)

## 〈靈源寺の歴史 続き〉

当時貸し斎場は現在と違い殆ど無く靈源寺は毎日のようにお葬儀が入っていましたのですさまじい忙しさがあったと思われます。また東京という札幌とは違う環境でとまどう部分があったかと思いますが、ご近所の方の協力・手助けがあり、13年もの長きにわたり勤務できたとおっしゃっていました。隆賢もたびたび靈源寺訪れ、お二人の苦勞をねぎらっていたそうです。



(左から 梶田さん、須貝さん、現住職)



(約 30 年前の靈源寺)

## ◆行事予定

平成 27 年 9 月 26 日(土) 午前 11 時より

・秋彼岸法要

平成 28 年 3 月

・春彼岸法要 (日程は後日お知らせいたします)

## ◆編集後記

いつもお読みいただきありがとうございます。寺報れいげんは博眞閣の 2F 廊下の棚に 1 号から置いてあります。何部でもご自由にお取り下さい。

さて 2 項目の写真は京都にある浄土宗総本山知恩院のライトアップイベントの写真です。

今年で 16 回目を迎える知恩院ライトアップは 11 月 6 日～12 月 5 日まで行われています。時間も 17:30～21:00 までと普段は閉門している時間に入れることも魅力の一つです。機会がございましたら是非。

(中村尚平)

## ◆次号予告

次号は平成 28 年 3 月の発行予定です。

〒142-0063

東京都品川区荏原 1-1-2

宗教法人 大光山靈源寺

TEL03-3494-1083 FAX03-3494-6319

Mail: [reigenji@gmail.com](mailto:reigenji@gmail.com)

ホームページ: <http://reigenji.konjiki.jp/>

発行人/太田眞琴